

今日のキーワード イエレンFRB議長の『議会証言』

米国の連邦準備制度理事会（FRB）は、年に2回、金融政策に関する報告書を議会に提出し、併せて上院と下院で議長が証言を行います。金融市場では、今後の金融政策の正常化、すなわち利上げやFRBのバランスシート縮小が大きな関心事項となっており、7月12日に下院金融委員会で行われたイエレンFRB議長の『議会証言』には市場の注目が集まりました。

ポイント1 経済は緩やかな拡大が続く見通し

インフレ率は緩やかに加速する見込みだが、不確実な点も

- イエレンFRB議長は、経済は緩やかな成長を維持する見通しと述べました。インフレ率については、最近の鈍化は特殊要因によるものであり、今後はFRBの目標である+2%に向かって徐々に加速すると予想しました。
- 経済見通しの不確実性として、「景気拡大の持続が、いつ、どれだけインフレ率の加速につながるか」という点を挙げています。

ポイント2 緩やかな利上げが妥当

バランスシート縮小は年内開始の予定

- こうした景気・物価に対する評価に加え、現状の政策金利が中立金利（景気を刺激せず、また抑制もしない景気にとって中立的な短期金利の水準）を下回っていると見られることから、FRBは利上げの継続が妥当と判断しました。
- もっとも、中立金利が極めて低い水準にあることを踏まえると、政策金利を大幅に引き上げる必要はなく、今後数年にわたって緩やかに利上げをするのが適切としています。
- バランスシートの縮小（FRBが保有する債券等の資産の圧縮）については、経済が想定通りに進展すれば、年内に開始する予定と述べ、また証言後の質疑応答では「比較的早期に」と語りました。



今後の展開 物価の落ち着き等から、利上げは緩慢なペースとなる見込み

イエレン議長の今回の『議会証言』は、ハト派的な内容と捉えられたことから、ニューヨーク市場のダウ平均株価は過去最高を更新、米国債利回りは小幅に低下（債券価格は上昇）、米ドル相場は主要国通貨に対して下落しました。

米国の景気は、個人消費を支えに順調な拡大基調を辿っていますが、物価や賃金の上昇率は依然として低い水準に止まっています。このため、FRBによる利上げや、バランスシートの縮小は緩やかな速度で進められる見通しです。

ここもチェック!

2017年7月10日 米経済の安定成長を示す雇用統計（2017年6月）
2017年7月 7日 『FOMC議事要旨』金融政策の正常化は緩やか

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。